

文化の白子

第39号 令和6年3月29日
編集・発行 白子町文化協会

<主な内容>

- ・鎌田の御塚山・・・巻頭
- ・第34回生涯学習
フェスティバル・・・2~4
- ・ふるさとしらこ祭・・・5
- ・ふるさと歴史発見・・・6
～交通信号機の発明～白井寅蔵
- ・郷土読本「石和田文弥」・・・7
- ・研修視察報告・・・7
- ・サークル活動報告・・・8
- ・編集後記・・・8

町指定文化財（史跡） 昭和六十三年三月一日指定

鎌田の御塚山

（管理者 前田一郎・古山剛）



鎌田の御塚山
剃金字鎌田

白子町役場から剃金西区を通る道路の東約三十メートルのところに、南北にかまぼこ型の塚が横たわっている。以前は、松林におおわれていて、古墳のように見えていた。東北の隅にほこら祠があつたが、今は、祠は朽ち果てて、雑木におおわれている。

上総国剃金村誌によると、「村の中央に墳墓がある。字鎌田という。周囲五十間、南北十五間、東西十間あり、里見義弘の臣である鎌田兵衛の墓と伝えられる。弘化年中より墓参りの人多く、いまなお、墓参りする人がある。俚言りげんにこれを里見四十八士の「一なり」とある。里見義弘の家臣の鎌田兵衛が何故、剃金の地に来たのかを推測すると、永禄七年（一五七三）第二国府台の戦いで、兵衛も奮戦したが、敗れて家臣団から脱落して落ち武者となり、東海の辺境地剃金に到来し、ここを最期地として没したのではないかと考えられる。

注 釈

・俚言りげん 俗間で使われる言葉。また、土地のなまり言葉。

参考資料

・ふるさとの歴史と白子の群像 千秋社 牧野 誠一

昭和六十二年二月二十日発行

・白子町の文化財 白子町教育委員会 平成八年三月発行



俳画クラブ

**展
示
部
門**

第34回白子町生涯学習フェスティバル

作品展示: 令和6年3月7日(木)~10日(日)

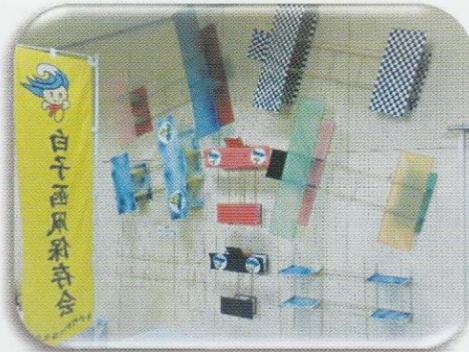
芸能発表: 令和6年3月10日(日)

展 示: 書道・俳句・写真・天文・染色・
俳画等文化協会所属のサークル部員、生涯学
習教室生の作品展示

芸能発表: 太極拳・コーラス・琴・ダンス・
オカリナ・太鼓等



白子天文サークル



白子函風保存会



白子絵手紙の会



白子町の文化財を守る会



白子町歩こう会



九十九里浜の自然を守る会



しらこ俳句会



染色サークル



白写会

芸術部門



あざみの会



コーラスサークルコールヴィント



レファTOYOKOカーホナオレ



太鼓衆 楽



オカリナサークル



太極拳竹友会



お琴サークルつむぎ



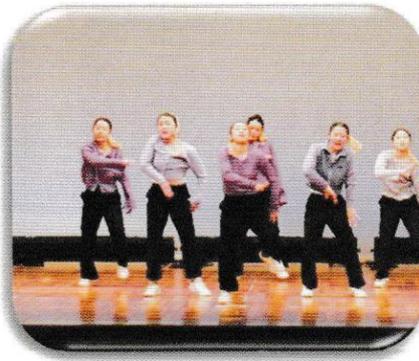
フォークダンスサークル

特別公演会

第一部 「若い力みなぎる!!」

ダンスパフォーマンス」

茂原北陵高校ダンス部



茂原北陵高校ダンス部

(演目)

・アップタウンファンク他十曲

(プロフィール)

★ 茂原北陵高校ダンス部は、1つのジャンルにこだわらず、多くのダンスに挑戦することを目標に日々活動している。

部員は、ほぼ全員が初心者だが、作品は全て自分たちで作っている。時には、作品に合わせ衣装をデザイン、製作することもあり、ダンスだけでなく苦労することもある。作品が形になった時の達成感と、仲間と多くの時間を共有した充実感から部員たちは生き

生きとしている。最近では、校外の発表会や大会への出場と活動の幅も広がっている。



力強く踊るダンス部員

★【近年の大会成績】

- American Dance Drill Team National/International Competition
- テキサス州ダラス 第二位
- 令和四年度 USA ジャパン HIP HOP 部門 第一位
- 令和四年度 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 ソロ部門 三年生 第三位
- 令和五年度 USA ジャパン HIP HOP 部門 第一位
- 令和五年度 関東ダンスドリル選手権大会 リリカル部門 第二位
- 令和五年度 関東ダンスドリル選手権大会 秋季大会 リリカル部門 第二位
- HIP HOP 部門 第二位
- ソロ部門 三年生 第一位

第二部 「春の音色ひびくオカリナ・フルートコンサート」

蝶和十ピアノ片岡久美子



蝶和 (神明弘奈・宗形彩)

(曲目)

- ・きつつきポルカ ・さくら(独唱)
- ・愛の挨拶 ・赤いスイトピー
- ・瑠璃色の地球 ・トルコ行進曲

(プロフィール)

★ 神明弘奈

武蔵野音楽大学卒業。在学中、ウインドアンサンブルメンバーに選出され世界初演、日本初演の楽曲を含むプログラムを演奏。第二三回ブルクハルト国際音楽コンクール奨賞、第二〇回長江杯国際音楽コンクール第三位、また大学同期生とのフルートデュオ Onionsにて第一八回日本フルートコンヴェンションアンサンブル部門金賞など多数入賞。現在講師・演奏家として地元の演奏活動を精力的に行いフルートやオカリナの普及に努めている。

★ 宗形彩

洗足学園音楽大学卒業、同大学院修了。第二四回東京国際芸術協会新人オーディション準合格。第三回フランス音楽コンクール奨励賞受賞。フルートを河合知子、中野真理、酒井秀明、吉岡次郎、真鍋恵子の諸氏に、オカリナを麻生圭子氏に師事。二〇一四年にリサイタルを開催。二〇一六年から千葉県東金市にて『宗形フルート・オカリナ教室』を開講。ソロ・室内楽を中心に特に東金市近郊で演奏会を行い、プロオケストラのエキストラや中学・高校の吹奏楽指導なども行っている。

★ 片岡久美子

茂原市出身・在住。国立音楽大学音楽教育学科卒業。ピアニストとしての演奏活動、音楽ボランティア、合唱指導、シニアキーボード教室など、活動は多岐にわたる。クミピアノ教室主宰。茂原市音楽協会副会長。



コンサートでの蝶和

第5回 ふるさとしらこ祭

作品展示:令和5年10月27日(金)~11月5日(日)

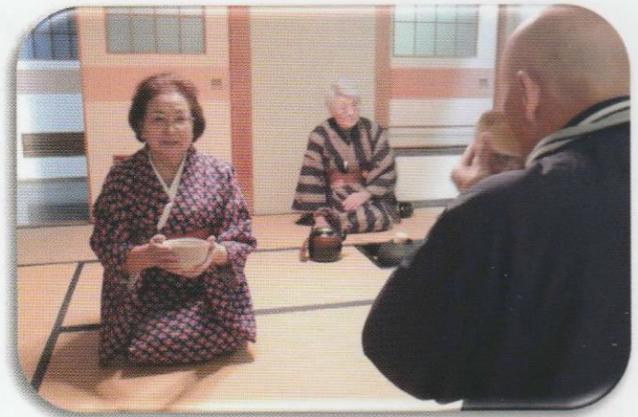
芸能発表:令和5年11月3日(金)

4年ぶりに「ふるさとしらこ祭」が行われました。久しぶりにたくさんの方が、いらっしやっ
て好評のうちに終わることができました。

ここに、掲載したサークルは、昨年度(令和4年度)の「生涯学習フェスティバル」に参加で
きなかったサークルで、令和5年度の「ふるさとしらこ祭」に参加したサークルを掲載しました。



生け花サークル



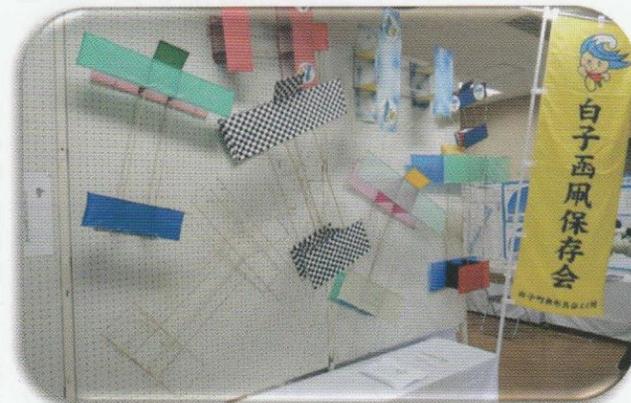
茶道サークル



南日当獅子舞保存会



洋裁クラブ



白子函風保存会



お琴サークルつむぎ

ふるさと歴史発見

交通信号機の発明

白井 寅蔵



白井 寅蔵

大正八年ごろ、白子町には自動車、わずか数台に過ぎなかったのに、現在では、大人一人に一台と行っても良いほど、普及している。

大正時代も現在と同様で、交差点の事故を防ぎ、歩行者の生命を守り、車のスムーズな往来を維持するための交通信号機の開発は焦眉の急とされていたが、容易に出現しなかった。

この時にあたり、多年の努力と精魂とを傾け、ついに交通信号機を開発して一躍日本の交通史上に大きな足跡を残した人に、我が白子町驚き出身の白井寅蔵翁がある。

白井翁は、大多和徠助の次男で明治三十五年生まれ。大成中

学校卒業後、独学で電気工学を修めた。大正十三年、二十一歳で警視庁の警官に採用され、やがて交通係となつて、交通難時代を切り抜けるには、交通整理の機械化にあることを看破し、以後、およそ三十年の長きにわたり、交通技術の研究に没頭した。

今日使われている自動制御装置の信号機ができるまでには、幾度かの工夫改良と交通指導者の努力があった。

まず、大正時代に①警官が手信号と警笛で、交差点の中央で方向を指示したり、夜間は提灯に「ススメ」、「トマレ」と書き示したりした。

次に、②標板型手信号で、「ススメ」、「トマレ」と書いた文字板を交差点の中央の柱の上にセツトし、警官が手で動かした。



標板型手信号機

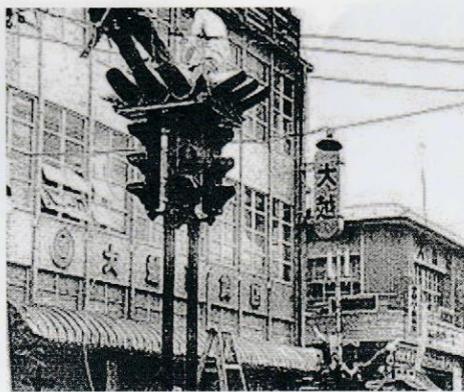
昭和初年には、③ボタン式整理器が出現して、「ススメ」、「チユウイ」、「トマレ」の三位の指示がなされた。

さらに、④あんどん式整理器

の出現。

次いで、⑤米国製中央柱式色灯が輸入され、自動制御装置が施された。

こうした状況の中、昭和七年東京州崎交差点で白井寅蔵氏考案の重複三位式交通整理器（特許四五六四五）が試験され、その結果、同年七月から国産第一号側柱式横型色灯三位式として警視庁に採用され、やがて全国の警察に普及した。



日本初の信号機

昭和二年以来、翁の悲願の信号機は六カ年余にして当初の開発を見たが、翁はこれを契機として、電車の自動踏切制御装置、踏切自動横断機、空襲警報伝達信号機及びペイント塗装区画線など、特許権七つと実用新案を次々に創案した。翁は、警視庁退職後も科学警察や交通災害対策に尽力された。

昭和四十七年には、勲六等旭

日章の勲位に叙せられた。

翁には、多くのエピソードがある。警視庁巡査になつた当時、犯人をとらえて心を痛め、その家庭に仕送りした話や、上司に自分の考えた信号方法を使うように進言したら、「青二才の分際で生意気だ」と冷笑されたこと、原庭警察署勤務時代、薄給の身で、自費で信号機をつくり、その信号機が警視庁内外に偉大な真価が認められ、称賛されても、「自分の勤めを忠実に果たしたまで」と言っているところなど、翁の人柄がしのばれる。

(参考資料)

・白子風土記

平成元年三月二十三日発行 白子町

・白子町の文化財

平成八年三月発行 白子町教育委員会

・ふるさとの歴史 白子の群像

昭和六十二年二月十日発行 著者 牧野誠一

著者 牧野誠一

郷土読本第九弾

「石和田文弥物語」

「白子の文化財を守る会」では、平成二十年以来、「白子中心の郷土読本」制作に携わってききました。

今回完成した「石和田文弥物語」は、①「板倉中物語」、②「俳匠前田普羅」、③「大多和與四郎物語」、④「寺部頼助物語」、⑤「第二十四代木村庄之助物語」、⑥「白子の青ノリ物語」、⑦「前田留吉物語」、⑧「片岡修徳物語」に次ぐ、このシリーズ第九弾にあたります。



石和田文弥

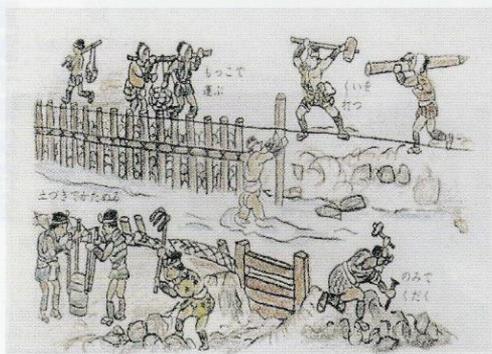
白子町・長生村辺りの土地は砂地で、晴天が十日も続くとすぐ水不足になりました。飢饉が起こり、浜宿・福島・驚などで、多くの水争いが起こりました。石和田文弥は、水不足を解消するための「松湯用水」建設に

尽力した人物です。彼は、早くから一宮川の水を白湯まで引くことを考えていました。まわりの村々と話し合いを重ね、「一松外四か村水利組合」を作り、工事の要請を国や県に働きかけました。また、村民大会を開き、村の人々に説明を続けました。

国の許可が下りると、反対していた人々も、組合に入り、工事は進められました。工事は、十一月から三月の農閑期に行われ、全て手作業でした。

この用水路の完成により、日照りの年でも作物が実るようになりました。

「石和田文弥」は、小学生の社会科の副読本にも取り上げられていて白子町民には、是非知っていただきたい人物です。



工事の様子(わたしたちの白子町より)

研修視察に参加して

横浜人形の家・崎陽軒工場見学

研修委員 猿田 勇

冬晴れの絶好の研修視察日となった十二月十三日、文化協会加盟の文化・芸能の各サークルの代表者二十八名が生涯学習バスにて視察地の横浜に向かいました。圏央道やアクアラインの車窓からは、雪を纏った見事な富士山が一行を歓迎してくれました。

最初の目的地「横浜人形の家」は、百カ国以上、一万点以上の人形を収蔵する施設です。魂が入り込んでいるような、すぐにも動き出しそうな人形もあり、あまり見つめると少し怖い気がするものもありますが、人形好きには堪らないような貴重な作品もありました。

昼食は、近くのホテルメルパルク横浜で中華定食を頂き、次の視察先「崎陽軒横浜工場」に向かいました。

工場では、冷めてもおいしいシュウマイの秘密やシュウマイの弁当が出来るまでの説明を受け、製造ラインを見学しました。

中でも経木の弁当箱への箱

詰めが、見た目も彩りもよく詰め込むため全て手作業で迅速に行われているのには驚きでした。見学後に出来立てのシュウマイが振舞われ、崎陽軒グッズもすっかりゲットし、帰途につきました。



横浜人形の家にて

車中で参加者の皆さんに感想を伺いましたが「研修視察だと滅多に行けない施設・聞けない解説を細部まで詳しく、見せ、聞かせて頂け、非常に興味深く感慨深いものが有りました。自身の創作活動にも大変参考になりました。機会が有りましたら是非ともまた参加させて頂きたい。関係者の皆様、大変お世話になり有り難う御座いました。」等の意見が多く寄せられました。

サークル活動報告

白子函唄保存会

牧野 敬一

白子町の函唄は、江戸時代に九十九里浜で鰯漁の地引網を行う際に、電話や広報無線等の通信手段がない時代に、浜でこの唄を揚げて人夫を集める手段として使われたと言われています。

私達、函唄保存会は、この歴史ある函唄を末永く、保存継承していくために、唄作り教室の開催や唄揚げ大会等の活動しております。

函唄に興味のある方のご参加をお待ちしております。

(活動日時) 偶数月 第二木曜日
一八時～一九時

(会費) 唄作成の材料費。



驚獅子舞保存会

小熊 茂

驚の獅子舞は、江戸時代の正徳年間に始まり約二〇〇年間続く伝統行事です。毎年一月と十月の祭典の日は、神前にて獅子舞を奉納し、高地区、納屋地区の各戸を廻り、悪魔祓いや無病息災を祈念します。世話人制で継承し、コロナ禍の数年間も感染防止に配慮しながら実施することができました。また、昨年は長年使用した獅子の胴幕を新しく作り直しました。現在は、神社奉納の獅子舞・お囃子の伝承と後継者の育成が大きな課題となっております。

(活動日時) 毎月第一日曜日

一九時～

(場所) 驚西自治会館

(会費) なし



染色サークル

海宝 千代子

染色サークルは、先生がご逝去されてからも、「染色の色見本表」を参考に、先生の教えをしっかりと守って作品作りに励んでいます。

作品作りでは、基本を守りつつ、みんなで意見を交わしながら楽しく作品を仕上げています。

それぞれ高齢となり、タクシードの参加者もおりますが、楽しみながら、素敵な仲間と作品を作ることは、素晴らしいことだと思います。

これからも、楽しく活動を続けたいと思っております。

(活動日時) 毎月第二・四金曜日

十三時三〇分～

(場所) 青少年センター

(会費) 毎月五〇〇円程度



編集後記

文化の白子第三十九号をお届け致します。原稿のご寄稿と写真・資料をご提供いただきました方々に感謝とお礼を申し上げます。

今年は、ふるさとしらこ祭、フェスティバルの二回の発表の機会を得て、南日当の獅子舞、生け花、茶道、洋裁、函唄、琴等を久しぶりに見ることができました。

最近、会員の高齢化で、活動が思うようにはできないサークルもあるようですが、これからも、好きなことをして、仲間を増やしましょう。

編集委員長 育野 建男
編集委員 長谷川 太江子

片岡 幹男

事務局 長島 正明

文化の白子第三十八号

発行者 白子町文化協会会長

大多和 秀一

事務局 白子町教育委員会

生涯学習課内

電話 (三三三) 二二四四

FAX (三三三) 七四六一

題字・友書会 三浦 静子書